

2006 年度統計力学 II 宿題 2 (4 月 19 日出題、4 月 26 日提出) 解答

担当 吉森 明

[問題 1.] 1 粒子のエネルギー固有状態が 3 個ある 3 準位系を考える。それぞれの状態のエネルギー固有値は、 $0, \epsilon, 2\epsilon$  で、粒子はたがいに相互作用していない理想気体とする。

- (a) 温度  $T$  の熱溜に接しているとし、粒子がフェルミ統計、ボーズ統計に従う場合のカノニカル分布における分配関数をそれぞれ求めなさい。ただし、粒子数は  $N = 3$  する。
- (b) さらに、化学ポテンシャルを  $\mu$  の粒子溜めに接するとして、グランドカノニカル分布の大分配関数を求めなさい。ただし、 $\mu < 0$  とする。

[解答](a)

フェルミ統計 微視的状态は、3 つの準位にそれぞれ 1 個ずつ粒子が入る場合しかない。この時、エネルギーは、 $3\epsilon$  だから、

$$Z = e^{-3\beta\epsilon} \quad (1)$$

ボーズ統計  $k$  番目の準位にはいる粒子の数を  $n_k$  として、微視的状态を、 $\{n_1, n_2, n_3\}$  であらわすと、

$$\begin{aligned} & \{3, 0, 0\}, \{2, 1, 0\}, \{1, 2, 0\}, \{2, 0, 1\}, \{1, 1, 1\}, \\ & \{0, 3, 0\}, \{0, 2, 1\}, \{1, 0, 2\}, \{0, 1, 2\}, \{0, 0, 3\} \end{aligned} \quad (2)$$

の 10 個ある。それぞれエネルギーは、

$$\begin{aligned} 0 & \quad \{3, 0, 0\} \\ \epsilon & \quad \{2, 1, 0\} \\ 2\epsilon & \quad \{1, 2, 0\}, \{2, 0, 1\} \\ 3\epsilon & \quad \{1, 1, 1\}, \{0, 3, 0\} \\ 4\epsilon & \quad \{0, 2, 1\}, \{1, 0, 2\} \\ 5\epsilon & \quad \{0, 1, 2\} \\ 6\epsilon & \quad \{0, 0, 3\} \end{aligned} \quad (3)$$

となるので、分配関数は、

$$Z = 1 + e^{-\beta\epsilon} + 2e^{-2\beta\epsilon} + 2e^{-3\beta\epsilon} + 2e^{-4\beta\epsilon} + e^{-5\beta\epsilon} + e^{-6\beta\epsilon} \quad (4)$$

(b)

フェルミ統計 教科書 P113 の公式 (7.69) から、

$$\Xi = \prod_{k=1}^3 (1 + ze^{-\beta\epsilon_k}) = (1 + z)(1 + ze^{-\beta\epsilon})(1 + ze^{-2\beta\epsilon}) \quad (5)$$

ボース統計 教科書 P113 の公式 (7.68) から、

$$\Xi = \prod_{k=1}^2 \frac{1}{1 - ze^{-\beta\epsilon_k}} = \frac{1}{1 - z} \frac{1}{1 - ze^{-\beta\epsilon}} \frac{1}{1 - ze^{-2\beta\epsilon}} \quad (6)$$

[問題 2.] 粒子に区別がある古典力学に対応する統計に (マクスウェル-) ボルツマン統計がある。これは、粒子に番号をつけて微視的状态を数え、最後に粒子数  $N$  の  $N!$  で割る。宿題の 3 準位系で、カノニカル分布の分配関数 ( $N = 3$ ) と、グランドカノニカル分布の大分配関数を求めなさい。また、粒子を区別するのにも関わらず、なぜ  $N!$  で割るのか、説明しなさい。

[解答]

カノニカル分布:  $k$  番目の粒子の準位を  $m_k$  として、微視的状态を  $\{m_1, m_2, m_3\}$  で表すと、それぞれのエネルギーを持つ微視的状态の数は

$$\begin{array}{ll} 0 & \{1, 1, 1\} \text{ で } 1 \\ \epsilon & \{2, 1, 1\} \text{ 等 } 3 \text{ つ} \\ 2\epsilon & \{1, 2, 2\} \text{ 等 } 3 \text{ つ}, \{1, 1, 3\} \text{ 等 } 3 \text{ つ}, \text{ 合計 } 6 \text{ つ} \\ 3\epsilon & \{1, 2, 3\} \text{ 等 } 6 \text{ つ}, \{2, 2, 2\}, \text{ 合計 } 7 \text{ つ} \\ 4\epsilon & \{2, 2, 3\} \text{ 等 } 3 \text{ つ}, \{1, 3, 3\} \text{ 等 } 3 \text{ つ 合計 } 6 \text{ つ} \\ 5\epsilon & \{2, 3, 3\} \text{ 等 } 3 \text{ つ} \\ 6\epsilon & \{3, 3, 3\} \text{ で } 1 \end{array} \quad (7)$$

となるので、分配関数は、

$$Z = \frac{1}{3!} \{1 + 3e^{-\beta\epsilon} + 6e^{-2\beta\epsilon} + 7e^{-3\beta\epsilon} + 6e^{-4\beta\epsilon} + 3e^{-5\beta\epsilon} + e^{-6\beta\epsilon}\} \quad (8)$$

グランドカノニカル分布: 教科書 P113 の (7.63) 式の 2 行め

$$\Xi = \sum_{n_1} \sum_{n_2} \cdots g(\{n_k\}) \prod_k \{ze^{-\beta\epsilon_k}\}^{n_k} \quad (9)$$

教科書 (7.64) 式を代入すると

$$= \sum_{n_1} \sum_{n_2} \cdots \frac{1}{\prod_k n_k!} \prod_k \{ze^{-\beta\epsilon_k}\}^{n_k} \quad (10)$$

$$= \prod_k \sum_{n_k} \frac{\{ze^{-\beta\epsilon_k}\}^{n_k}}{n_k!} \quad (11)$$

$n_k$  は、0 から  $\infty$  までの値をとるから

$$= \prod_k \sum_{n=0}^{\infty} \frac{\{ze^{-\beta\epsilon_k}\}^n}{n!} \quad (12)$$

指数関数の展開公式を使って

$$= \prod_k \exp[ze^{-\beta\epsilon_k}] \quad (13)$$

今は、3 準位だから

$$= \exp[z] \exp[ze^{-\beta\epsilon}] \exp[ze^{-2\beta\epsilon}] \quad (14)$$

なぜ  $N!$  で割るのか: カノニカル分布の場合は、量子力学の連続性を保つためだと考えられる。つまり、高温、低密度にすると、同じ準位に 2 つ以上粒子が入ることがないために、微視的状态の数が同じになり、フェルミ統計とボース統計に違いがなくなる。この場合には、粒子に番号を付け区別しても、最後に  $N!$  で割れば正しい答えがでる。ただし、カノニカル分布の場合は、粒子数が固定なので、 $N!$  の項は定数となり、本質的で無い。

グランドカノニカルについては、量子力学との関係からの説明の他に、粒子を区別するからこそ必要な因子と考えることが出来る。その説明を知りたい人は、研究室に直接聞きに来て下さい。